

令和3年度 第3回学校協議会 会議録

1 日 時 令和4年3月25日（金）18時30分

2 場 所 産業高校会議室

3 出席者

(1) 学校協議会委員（50音順 敬称略）

産業高等学校元PTA会長	池内 美智子
産業高等学校同窓会副会長	北野 好美
JFE継手株式会社	信貴 政則
岸和田市立中学校校長会会長	松田 篤人（欠席）
産業高等学校PTA会長	藪 耕紀

(2) 学校（事務局）

校長	楠戸 啓之
全日制教頭（司会）	大西 敦子
定時制教頭	榎本 正広
全日制教務部長（首席）	齋藤 良房
事務長（記録）	田中 幸博

4 次 第

(1) 校長挨拶

(2) 会長挨拶

(3) 「学校教育自己診断」

○大西教頭

「学校教育自己診断」の結果分析について、全日制と定時制それぞれでご報告させていただきます。

◇齋藤教務部長

- ・生徒結果には、昨年度の合計のパーセントは出ていないが、次年度の目標設定のカッコ内に昨年度の結果ということで掲載をしている。
- ・生徒結果は30項目ある。今年度は、昨年度よりも悪い結果が1項目しかない。
- ・他の項目については、昨年度より全て良い結果を得ることができている。
- ・今年度についてはたくさんの項目が80%を超えることが出来た。これは非常にうれしい結果となった。ただその分次年度は、また気を引き締めて頑張っていかなければいけないと思っている。
- ・生徒結果1番目「学校へ行くのが楽しい」の今年度は、AとBを合わせた合計が81%になっている。昨年度は78%。今年度については、全学年で二重丸となり80%を超えることができた。非常にうれしく思う。
- ・「この学校には他の学校にない特色がある」「わかりやすく、教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」も数字が伸びている。専門高校なので、難しい内容まで入ってるところがあるが、その中で、教え方がしっかりしていれば80%を超えてくると思う。

次年度も引き続き「わかりやすく、教え方に様々な工夫をしている先生が多い」というところについては、鋭意努力を重ねていきたいと思っている。

- ・7番の「学習の評価」は、次年度から観点別評価という評価方法が取り入れられることになった。1年生については、今までの評価方法と変わる形になる。先生方で研修等をして、次年度1年生にしっかり対応していく。また、次年度の1年生のこの項目でのフィードバックがどんなふうになるのか楽しみでもあり不安でもある。
- ・9番の「学校生活について、学校の指導は理解できる」はどうしても生活指導が関わってくるところになり、例年あまり評価としては高くない数字とはなっているが、こちらについても、昨年度55%であったものが、今年度は59%ということで、4%は伸びている。これからも学校の指導について根気強く、なぜそれが必要なのか、それがどのように役に立つのかといったことを、生徒達に理解してもらいながら、続けていきたいと思っている。
- ・28番の「自分は、学校の施設・設備を大切に扱っている」は、残念ながら昨年と比べて1ポイント下がった。全学年もう少し意識を高めてもらわないといけないと思っている。ただし、パーセントとしては、97%が96%に下がったということなので、もともとの意識は非常に高いものとなっておりご理解いただければと思う。
- ・保護者用は、保護者の方に毎年12月に生徒を通じて持ち帰ってもらったものを返送いただいているが、今年度については、391通の回答をいただいた。(昨年度は380通)
- ・3学年30項目ずつのうち、二重丸になっている欄が60欄となる。これも昨年度は55欄であったので良い結果となった。ただし、全体的なところで、コロナ禍の影響でよくわからないと回答いただくことが多くなっているため、仕方のないことではあるが、これからは学校の様子等をできるだけ保護者の方々にもお伝えできる機会を増やしていきたいと思う。
- ・「高校生活全般に関するもの」が、やはり生徒の声、あるいはホームページ、学校の携帯メール等により、情報が保護者まで伝わっている結果が表れていると分析している。
- ・「生活指導に関するもの」は、生徒たちの回答に比べて、二重丸が非常に多くなっている。15欄中13欄で二重丸となっているので、保護者の方々には、学校の指導方針等、全般的に理解が得られていると受け取ることができるのではないかと思う。
- ・「学習指導に関するもの」については、学校の授業を中々紹介するところがない、触れる機会がないため、この数字に表れていると思う。ただ、昨年度で三角がついているところについては改善されているので、これからは鋭意努力していかなければならないと考えている。
- ・「進路指導に関するところ」についても、昨年度は非常に変則的で、例えば就職試験も日程が変わったりしたが、今年度は、例年通りの形でスケジュールがこなせていけたところもあると考えている。2、3年生については全ての欄で二重丸となっており、学校の進路指導部全般的に理解されている結果だと思っている。
- ・保護者、生徒、教職員の質問項目の中で、共通すると思われる13項目について、「『実際に学校生活を送っている生徒達の結果』の目標を80%以上に設定し取り組みます」ということで、13項目について目標設定を行っている。

- ・13項目の内、今年度は、10項目で80%を超えることができた。昨年度6項目であったのに対し、非常に多くの項目で80%を超えることができ、喜ばしい結果となった。
- ・残念ながら80%を切ってしまったところについては、※のところコメントを書いている。昨年度も同じコメントとなっているが、継続して、改善に向けて努力を続けなければならないと考えている。特にコロナ禍において人間関係がうまく構築できずに悩む生徒が増えている。今年度についても、進路変更せざるを得ない生徒達が増えているように思う。コロナ禍において、これから入試を終えて入ってくる1年生が楽しく充実した高校生活を送ることができるよう、我々も益々より一層尽力していきたいと考えている。
- ・次年度の目標設定は、共通の13項目について今年度以上に数字を伸ばすことができるように頑張っていきたいと思っている。

◇榎本教頭

- ・令和3年度は、全体的な結果としては、生徒と保護者の満足度が、昨年度に比べると非常に良かったという結果がでていた。
- ・令和2年度はコロナ禍でいろんな行事が縮小を余儀なくされた。まず4月当初、学校が休校の状態から始まったので、教育活動、学校にとって、あまりよくない1年であったと思う。
- ・定時制は、修学旅行が最終学年で行くことになっており、令和2年度は1月に北海道から行先を変更したのにもかかわらず、修学旅行の前日になって大阪府からの通達により実施できないまま、令和2年度は終わった。そういうこともあって、令和2年度は、生徒、保護者の満足度、学校に対しての評価は低かった。
- ・令和3年度は、修学旅行は夏に変更し、ちょうどコロナの谷間に入って、無事に実施でき、それから、すべての行事が予定通り行えた。それに加えて、今年度から野外体験活動で飯盒炊爨などの行事ができたということで生徒の満足度は非常に高かったというのはまず全般的な印象である。
- ・目標設定は、令和2年度令和3年度の比較で、11項目について、定時は60%以上を目標に設定して取り組んできた。令和2年度の網掛けしているところ、これが特に令和2年度満足度の低かったところということになる。
- ・「学校に行くのが楽しい」が46.8%と非常に低い。「授業が分かりやすく楽しい」も57.4%、それから「ホームルーム・学校行事の参加」についても低く、特にこの3項目が今年度の課題になっていた。
- ・令和3年度は、この11項目すべてにわたって改善している。全て目標が60%を超え、数字の結果だけであるが、良い結果がでていた。来年度もこれを維持するのは大変だと思うが、生徒の肯定的な意見が大半を占められるように来年度も頑張っていきたいと思う。
- ・目標設定はいくつかの項目をまとめたもので、細かく見て行くと「ホームルーム活動に積極的に参加している」これもだいぶ改善したが、59.5%と、少し届かなかった。
- ・「学校内での友人関係が煩わしく思うこともある」これは否定的なところが高いほど良いが、これも59.5%でもう一步届かなかった。
- ・唯一低いのが部活動。定時制は終わる時間が夜の9時5分なので、終わってからの部活

動はやりにくい状況である。唯一軽音楽部がわずかな時間であるが活動しているが、このあたりは課題なのかなと思う。

- ・保護者の回答も非常にいい結果がでていると思う。
- ・12番の行事関係、子どもは積極的に参加しているというふうには見えていないが75%である。保護者に関しては8割以上を目標にしているので、少し低いが、来年度、行事も工夫していき、改善出来たらという風には思っている。
- ・学校教育自己診断 比較は、似たような項目を、生徒、保護者、教職員で横に並べたものである。白抜きの部分が弱い部分だが、ホームルーム活動に積極的に参加できていない、生徒自身、保護者、教職員の目から見てもだめであるとの診断であった。ここは、課題であると思う。
- ・進路指導に関しては、教職員がまだまだ改善の余地があるということで非常に肯定率が低い、生徒や保護者からは、高評価をいただいていると思う。
- ・全般的にはいい結果が今年度でたと思っているが、来年度は、行事関係、ホームルーム関係を更に改善出来ていければと思っている。

○質疑応答

(委員) 学校に行くのが楽しいのは、先生方は何が要因と思うか。

(事務局) 全日制は、去年と比べコロナ禍において出来ることが増えた。2年生と3年生は去年と比較ができるので、評価につながったと思う。1年生は、今回初めて産業高校で1年間過ごしたことになるので、比較するならば中学の時になる。色々な地域の子が集まってひとつの集団を作っていることや、高校生になって行動範囲も広くなり、クラブや校外学習の際、一人で公共交通機関を利用したり、文化祭等も今まで通りではないが保護者に来ていただいてバザー等も出来たので、そのあたりが評価につながったとは思っている。

(事務局) 定時制も学校で友達と会って授業を受ける、先生に直に教室で授業をしてもらえることができたことが大きいと分析している。その理由としては、授業の充実についての「授業は分かりやすく楽しい」が昨年度57.4%、それが73.8%に、「学力は身につけてきている」も63.8%から71.4%と、やはり学校に行って友達と会える、一緒に勉強できる、行事に参加できる、このあたりが大きかったと分析している。

(事務局) 今年度、9月下旬から12月までコロナの落ち着いた期間が約3か月近くあった。学校の行事が集中するのが2学期ということもあり産高祭や校外学習、色々な行事が落ち着いたときに全部できた。その結果が今回数字にでてきているのではないかなと思う。

(委員) これだけ学校の評価がいいというのはびっくりしている。先生方がきちんと分析して、問題課題をはっきり認識されているので、それに対しての努力はしやすいと思う。全日制も定時制もすべて上がっているから相当すごいと思う。先生方の努力だと思う。

(委員) 良い意味で、アットホームというか、和気あいあいというか、そういうのが先生と生徒の間にできているのではないかな。

(事務局) 本校の校風というか、伝統なのかなとも思っている。産業高校ならではのかもしれない

が、教員と生徒の距離、心的な距離が近いというのがひとつの特色かもしれない。それがこの数字に表れてきているという考えかたもできるのではないかと、今お話を聞きながら思った。

(委員) 今度、成年年齢 18 歳、高校 3 年生で 18 歳をむかえる。結構色々問題が出てくるだろう。

(事務局) 在籍中、在校中に成年年齢を迎えることになる。

(委員) 成人の資格というか権利が生まれるので、高校生の親も先生も大変だと思う。

(事務局) 18 歳成人の値打ちというのは、自分で契約が出来ることである。大人として自分の責任において契約が出来る。例えば資金を融通し企業を立ち上げることも出来る。民法が変わるのは大きな節目である。現実的には 18 歳になって起業するのは無理かもしれない。でも出来る可能性ができたのと、出来ないのとは全然違うと思う。金融被害にあわないように指導もしていかなければならないのは当然である。

(委員) コロナ禍で、生活指導において違う項目が増えたか。

(事務局) 違う項目ということではないが、体調が悪い時は自宅での休養を促し、無理して登校しないよう指導しなければならないため、その状況が続くと生活習慣が乱れてしまい、いざ学校に行こうと思った時に朝起きられない、夜型になってしまっているといった生徒が少なからずいるような気はする。また、一昨年は休校から始まったため、高校生活のスタートや新年度の始まるの時期に生活リズムを作ることができず、休校が明けてからの生活リズムを取り戻すのが大変だったように聞いている。

(委員) 今のところは、この一年間もこの体制でいくことになるだろう。

(事務局) 欠席ではなく出席停止の扱いとなっても、教室での授業を受けずにテストに臨むとやはり成績の方に影響が出ることになる。本校ではまだ、環境的にオンライン授業が出来ないため、そうならないためにも出席停止が続いた生徒には、課題を家に送ったり、解説を書いて渡したり、生徒のスマホで画面越しに話をしたり、登校後に補講を行う等で対応しているが、今後解決していかないといけない部分であると考えている。

(事務局) 保護者結果の「進路指導に関するもの」で、昨年度は一重丸が多いが今年度は二重丸が増えている。昨年度は集合型の説明会が出来なかったため、保護者への進路情報の提供は、ホームページにアップしてオンデマンドの形で行った。通常は学校に来ていただいて対面で顔を見ながら保護者に様々な進路の情報をお伝えしたり、お願いしたりという形でしていた。今年度は基本的に来校していただいて対面で実施している。昨年度だけオンデマンドを活用したのがこの結果ではないかと思う。やはり対面で顔を合わせて話をする、伝えるということの重要性がここ 2 年で表れているのではないかと思う。画面を通じて説明するのと、顔を見ながら直接気持ちを伝えるのとでは、これだけ大きな違いがでると、この結果を見て感じた。

(事務局) 進路面では、3 年生の夏に就職の指導をするが、そのころに感染状況が悪かった時期があった。履歴書を書く、面接の練習をする時期に、濃厚接触や陽性になって登校できない生徒が何名かだったが、指導をしないまま就職試験を受けに行かせるわけにもいかないため、その生徒たちには自身のスマホと学校の iPad を繋いで、画面越しに履歴書や面接の指導を行った。昨年度は、そういうことが出来る環境ではなかったが、今

年度は、Wi-Fi の設備も整ったので大変助かった。

(委員) 3月に集団で会社の合同説明会というのがあって、ここがガラガラで大学生が集まらない。その分ウェブで参加している。これが大学生のスタンダードというか常識になっている。そこに行くよりもウェブで参加、今は面接もウェブです。仕方なくではあるが、実はそういう時代なのかなとも思う。我々も、大阪市内まで出向いて説明会をするよりもウェブでした方が効率的であると考えているし、申込人数も3倍4倍になっている。ただ、やはり対面というのも当然大事であると我々も思っており、面接は対面でやるべきだとは思う。しかしながら、それまでの段階はそういうことを学生は望んでいるのかなという気はする。

○大西教頭

いろいろとご意見を頂きましてありがとうございました。この結果をもとに来年度も協力しながら頑張っていきたいと思っておりますので、また、どうぞよろしく申し上げます。

19時20分終了